

日本最古の国道～ 「竹内街道・横大路(大道)」(大阪府・奈良県)



大陸と日本を繋ぐ「はじまりの道」 街道には1400年の歴史や文化が息づく

竹内街道・横大路(大道)は大阪から奈良までの約40キロにわたる日本最古の国道。女帝・推古天皇の時代である613年に制定されたこの道は、以後1400年以上にわたって歴史や文化を育み、2017年に日本遺産に認定されました。



藤原宮の大極殿跡南東の蓮池は約3000平方メートル。11種の蓮が栽培され、7～8月が見ごろです。



聖徳太子ゆかりの四天王寺



街道沿いにある世界遺産の仁徳天皇陵古墳



橿原市の八木札の辻は日本最古の国道交差点といわれます

10市町村40キロを結ぶ

「竹内街道横大路(大道)」は、大阪市からまっすぐ南下する難波大道、堺から河内を抜ける竹内街道、さらに奈良盆地を東西に走る横大路から飛鳥に至る上中下の三つの道から構成され、大阪府内は大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町、奈良県内は葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村の10市町村にまたがります。

旅行業界との連携も課題

「竹内街道・横大路(大道)」は実行委員会がPRなどの運営を行っています。委員会設立は2013年の街道敷設1400年がきっかけ。沿道10市町村はそれぞれ観光素材の整備などに取組むほか、持ち回りで会長を務め、イベントの実施など広域で一体となり魅力創出を行っています。

この道は7世紀、大阪府の難波津と当時政治の中心地、奈良県の飛鳥・小墾田宮を結ぶ「大道」として整備され、ここを通して朝鮮半島や中国からの外交使節や遣隋使・遣唐使が往来し、大陸の文化や仏教が伝わりました。中世には自由都市・堺と大和を結ぶ経済路に、江戸時代には伊勢参りの旅路となるなど、1400年余の時間が息づきます。

「活動の第2段階。街道上の隠れた観光素材にはスポットを当て、すでに有名な観光素材には街道という切り口を付与できるところに価値がある」と実行委員会。今後は「旅行会社との連携や商品化も課題の一つ」としてさらなる発展・展開を視野に入れていきます。



松原市の河内鴨は街道上の新たな味覚



実は大阪の河内地域はブドウの産地。羽曳野市ではワインが作られています



太子町科長神社の夏祭り。曳行される地車のなかには府内では珍しい船形のものも